

6.7.2 予測・評価

(1) 造成等の施工による一時的な影響及び施設の存在に伴う動物への影響

1) 予測

① 予測内容

工事の実施における造成等の施工による一時的な影響及び施設の供用における施設の存在が新施設整備予定区域及びその周囲に生息する動物へ及ぼす影響について予測した。予測内容を表 6.7.2-1 に示す。

**表 6.7.2-1 造成等の施工による一時的な影響及び施設の存在
に伴う動物への影響の予測内容**

予測項目	・生息地の消滅の有無並びに改変の程度及び内容 ・重要な種等の生息環境の変化による影響の程度及び内容
予測対象時期	対象事業に係る工事の実施時及び工事の完了時において、その影響が最大となる時期

② 予測項目

予測項目は、対象事業の影響要因と各分類群の生態的特性及び現況調査結果を考慮して選定した。選定結果を表 6.7.2-2 に示す。

表 6.7.2-2 動物の影響要因とその予測項目

影響要因			予測項目
工事の実施 及び 施設の供用	施設の存在	生息地の消失又 は縮小	・生息地の消滅の有無並びに改変の程度及び内容
	造成等の施工によ る一時的な影響	土地の改変に伴 う水の濁り ^{注)}	・重要な種等の生息環境の変化による影響の程度 及び内容

注) 工事の実施により下流の水路や池などに新施設整備予定区域からの工事排水が流入することが想定されるため、主に水路や池に生息する両生類や昆虫類、魚類及び底生動物を選定した。

③ 予測地域

予測地域及び予測地点は、調査地域のうち、動物の生息の特性を踏まえて重要な種等に係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域とし、重要な種等の生息地とした。

④ 予測対象時期

予測対象時期は、動物の生息の特性を踏まえて重要な種等に係る環境影響を的確に把握できる時期として、各要因の影響が最大になる時期を検討した。検討の結果を表 6.7.2-3 に示す。

表 6.7.2-3 動物の影響要因とその予測対象時期

影響要因			予測対象時期
工事の実施 及び 施設の供用	施設の存在	生息地の消失又 は縮小	土地の改変面積が最大となる時期
	造成等の施工による 一時的な影響	土地の改変に伴 う水の濁り	造成等の施工により土砂による水の濁 りに係る環境影響が最大となる時期

⑤ 予測の基本的な手法

重要な種等の生息地の消滅の有無並びに改変及び生息環境の変化による影響の程度及び内容の予測方法を表 6.7.2-4 に示す。

表 6.7.2-4 予測の基本的な手法

影響要因			予測方法
工事の実施 及び 施設の供用	施設の存在	生息地の 消失又は 縮小	<ul style="list-style-type: none"> ・重要な種等の確認場所と工事施工計画を重ね合わせることにより、改変程度を予測する方法とした。 ・改変の程度が重要な種等に与える影響について、事例の引用又は解析により定性的に予測した。
	造成等の施工 による一時的な影響	土地の改 変に伴う 水の濁り	<ul style="list-style-type: none"> ・「6.5 水質」で環境保全措置として検討した「仮設沈砂池の設置」、「仮設沈砂池の浚渫」及び「速やかな転圧等」を実施したうえ、工事排水に伴う水質（水の濁り）の予測結果をもとに、工事排水の流入が想定される水路や池に分布する重要な種等の生息環境の変化の程度を予測する方法とした。 ・変化の程度が重要な種等に与える影響について、事例の引用又は解析により定性的に予測した。

⑥ 予測結果

i) 予測結果概要

重要な種等に対する造成等の施工による一時的な影響及び施設の存在の影響予測結果の概要を表 6.7.2-5 に示す。

施設の存在（生息地の消失又は縮小）に係る予測結果は、予測対象種 46 種のうち「影響を受ける（A）」に該当する種は 3 種、「影響は小さい（B）」に該当する種は 10 種、「影響は極めて小さい（C）」に該当する種は 33 種、「影響はない（D）」に該当する種は 0 種であった。

造成等の施工による一時的な影響（土地の改変に伴う水の濁り）に係る予測結果は、予測対象種 26 種のうち「影響を受ける（A）」に該当する種は 0 種、「影響は小さい（B）」に該当する種は 0 種、「影響は極めて小さい（C）」に該当する種は 7 種、「影響はない（D）」に該当する種は 18 種であった。

表 6.7.2-5(1) 重要な種等の予測結果一覧

予測対象	影響要因の区分		工事の実施及び施設の供用	
			施設の存在	造成等の施工による 一時的な影響
		生息地の消失又は縮小	土地の改変に伴う水の濁り	
1	哺乳類	ヒナコウモリ科の一種	C	
2		イタチ属の一種	C	
3	鳥類	オシドリ	C	
4		ミサゴ	C	
5		ハチクマ	C	
6		ツミ	C	
7		ハイタカ	C	
8		オオタカ	C	
9		サシバ	C	
10		チョウゲンボウ	C	
11		ハヤブサ	C	
12		トラツグミ	C	
13		コサメビタキ	C	
14	両生類	セトウチサンショウウオ	A	D
15		アカハライモリ	C	D
16		ニホンヒキガエル	C	D
17		トノサマガエル	B	D
18	爬虫類	ニホントカゲ	C	

注) 予測結果は、影響の程度により「影響を受ける（A）」、「影響は小さい（B）」「影響は極めて小さい（C）」、「影響はない（D）」の4段階に区分した。

なお、各重要な種等において予測対象外の影響要因は空欄（斜線）とした。

表 6.7.2-5(2) 重要な種等の予測結果一覧

予測対象	影響要因の区分	工事の実施及び施設の供用		
		施設の存在	造成等の施工による 一時的な影響	
		生息地の消失又は縮小	土地の改変に伴う水の濁り	
19	昆虫類	ベニイトトンボ	B	D
20		カトリヤンマ	C	D
21		サラサヤンマ	B	D
22		キイロサナエ	C	C
23		オジロサナエ	C	C
24		タベサナエ	B	C
25		ヒメアカネ	B	D
26		オオミズムシ	B	D
27		ヒメタイコウチ	A	D
28		キマダラセセリ	C	
29		マルチビゲンゴロウ	C	D
30		ミズスマシ属の一種	C	D
31		キイロコガシラミズムシ	C	C
32		スジヒラタガムシ	B	D
33		ヘイケボタル	C	D
34		ゲンジボタル	C	C
35		トゲアリ	C	
36	陸産貝類	ヤマトアシナガバチ	C	
37		モンスズメバチ	C	
38	陸産貝類	ウメムラシタラガイ	C	
39		オオウエキビ	C	
40	魚類	ミナミメダカ	A	D
41		シマヒレヨシノボリ	C	C
42	底生動物	カワニナ属の一種	C	C
43		ヒラマキミスママイマイ	B	D
44		ヒラマキガイモドキ	B	D
45		ドブシジミ	B	D
46		サワガニ	C	C

注) 予測結果は、影響の程度により「影響を受ける(A)」、「影響は小さい(B)」「影響は極めて小さい(C)」、「影響はない(D)」の4段階に区分した。

なお、各重要な種等において予測対象外の影響要因は空欄(斜線)とした。

ii) 重要な種等ごとの予測結果

施設の供用（生息地の消失又は縮小）及び造成等の施工による一時的な影響（土地の改変に伴う水の濁り）に係る重要な種等ごとの予測結果を表 6.7.2-6 に示した。

表 6.7.2-6(1) 重要な種等ごとの予測結果

No.	種名	予測結果		結果区分
1	哺乳類 ヒナコウモリ科の一種	生息状況・ 生息環境	春季に新施設整備予定区域外の 6 カ所の林縁など、夏季に新施設整備予定区域外の林縁などの 5 カ所で捕食飛翔中と考えられる個体を超音波（バットディテクター）により確認された。 新施設整備予定区域及び周辺には、洞窟などの繁殖環境は確認されず、繁殖していないと考えられる（繁殖ランク D）。	
		生息地の消失又は縮小	新施設整備予定区域及び周辺地域の樹林等は、本種の餌場環境として利用されているが、繁殖環境（洞窟等）は確認されなかった。本種の生息環境は、その一部が改変されるものの、同様の環境が広く残存する。よって、本種の生息環境への影響は極めて小さい。	C
2	哺乳類 イタチ属の一種	生息状況・ 生息環境	秋季に新施設整備予定区域内の湿地環境のセンサーダメラで 6 回撮影され、春季に道路脇の 1 カ所で個体が、耕作地の 1 カ所で糞が確認された。 本種は、一定の行動圏に留まる性質があることから、新施設整備予定区域周辺の樹林などで繁殖している可能性がある（繁殖ランク C）。	
		生息地の消失又は縮小	新施設整備予定区域及び周辺地域の樹林等は、本種の生息環境として利用されている。本種の生息環境は、その一部が改変されるものの、同様の環境が広く残存する。よって、本種の生息環境への影響は極めて小さい。	C
3	鳥類 オシドリ	生息状況・ 生息環境	秋季に新施設整備予定区域外の 1 カ所の池で 2 個体が確認された。 非繁殖期のみの確認であり、越冬のための飛来と考えられる（繁殖ランク D）。	
		生息地の消失又は縮小	新施設整備予定区域及び周辺地域の池や周辺樹林等は、本種の冬季の餌場環境として利用されている。本種の生息環境は、その一部が改変されるものの、同様の環境が広く残存する。よって、本種の生息環境への影響は極めて小さい。	C
4	鳥類 ミサゴ	生息状況・ 生息環境	猛禽類調査では 2~8 月に新施設整備予定区域外の広域で計 24 例確認され、一般鳥類調査では春季に新施設整備予定区域上空で 1 例が確認された。 複数の個体が確認され、餌運びも頻繁に確認されたが、営巣場所の特定はできなかった。観察結果から、少なくとも新施設整備予定区域の直近では繁殖していないと考えられる（繁殖ランク C）。	
		生息地の消失又は縮小	新施設整備予定区域及び周辺地域には本種の餌場となる大規模な水域は分布せず、営巣地も確認されなかった。本種の営巣環境は、その一部が改変されるものの、同様の環境が広く残存する。よって、本種の生息環境への影響は極めて小さい。	C

注) 予測結果は、影響の程度により「影響を受ける（A）」、「影響は小さい（B）」「影響は極めて小さい（C）」、「影響はない（D）」の4段階に区分した。

表 6.7.2-6(2) 重要な種等ごとの予測結果

No.	種名	予測結果		結果区分
5	鳥類 ハチクマ	生息状況・ 生息環境	猛禽類調査では 5~8 月に新施設整備予定区域外の広域で計 27 例が確認された。 7 月には特定の樹林への執着が確認されたが 8 月の出現はわずかとなり、巣は見つからなかった。観察結果から、少なくとも新施設整備予定区域の直近では繁殖していないと考えられる（繁殖ランク C）。	
		生息地の消失又は縮小	新施設整備予定区域及び周辺地域の樹林等は、本種の餌場環境として利用されているが、営巣地は確認されなかった。本種の生息環境は、その一部が改変されるものの、同様の環境が広く残存する。よって、本種の生息環境への影響は極めて小さい。	C
6	鳥類 ツミ	生息状況・ 生息環境	猛禽類調査では 4、7 月に新施設整備予定区域外の樹林環境で各 1 例が確認された。一般鳥類調査では秋季に新施設整備予定区域外の林縁で 1 例が確認された。 繁殖期にも確認されたが、確認例は少なく、繁殖行動は確認されなかったことから、新施設整備予定区域周辺では繁殖していないと考えられる（繁殖ランク D）。	
		生息地の消失又は縮小	新施設整備予定区域及び周辺地域の樹林等は、本種の餌場環境として利用されているが、繁殖行動の可能性は低い。本種の生息環境は、その一部が改変されるものの、同様の環境が広く残存する。よって、本種の生息環境への影響は極めて小さい。	C
7	鳥類 ハイタカ	生息状況・ 生息環境	猛禽類調査では 2~4 月に新施設整備予定区域外の広域で計 10 例が確認された。 非繁殖期のみの確認であり、越冬のための滞在もしくは、渡り途中の滞在と考えられる（繁殖ランク D）。	
		生息地の消失又は縮小	新施設整備予定区域及び周辺地域の樹林等は、本種の冬季の餌場環境として利用されている。本種の生息環境は、その一部が改変されるものの、同様の環境が広く残存する。よって、本種の生息環境への影響は極めて小さい。	C
8	鳥類 オオタカ	生息状況・ 生息環境	猛禽類調査では 2~4 及び 7~8 月に新施設整備予定区域外の広域で計 14 例が確認された。 3 月には新施設整備予定区域から離れた地域で繁殖ペアの存在が示唆され、8 月には、新施設整備予定区域から約 2 km 離れた樹林で営巣木と巣立ち雛（鳴き声）が確認された（繁殖ランク A）。	
		生息地の消失又は縮小	新施設整備予定区域及び周辺地域の樹林等は、本種の餌場環境として利用されており、約 2 km 離れた地点に営巣地が確認た。本種の生息環境は、その一部が改変されるものの、同様の環境が広く残存する。また、確認された営巣地は十分に離れている。よって、本種の生息環境への影響は極めて小さい。	C
9	鳥類 サシバ	生息状況・ 生息環境	猛禽類調査では、4~6 及び 8 月に新施設整備予定区域外の広域で計 6 例が確認された。一般鳥類調査では、秋季に 2 個体が、春季に 2 個体の上空通過が確認された。 繁殖期にも確認されたが、確認例は少なく、繁殖行動は確認されなかったことから、新施設整備予定区域周辺では繁殖していないと考えられる（繁殖ランク D）。	
		生息地の消失又は縮小	新施設整備予定区域及び周辺地域の樹林や湿地等は、本種の餌場環境として利用されているが、繁殖行動の可能性は低い。本種の生息環境は、その一部が改変されるものの、同様の環境が広く残存する。よって、本種の生息環境への影響は極めて小さい。	C

注) 予測結果は、影響の程度により「影響を受ける（A）」、「影響は小さい（B）」「影響は極めて小さい（C）」、「影響はない（D）」の4段階に区分した。

表 6.7.2-6(3) 重要な種等ごとの予測結果

No.	種名	予測結果		結果区分
10	鳥類 チョウゲンボウ	生息状況・ 生息環境	猛禽類調査では、2月に新施設整備予定区域外の耕作地で1例が確認された。 非繁殖期のみの確認であり、越冬のための滞在と考えられる（繁殖ランクD）。	
		生息地の消失又は縮小	新施設整備予定区域及び周辺地域の耕作地等は、本種の冬季の餌場環境として利用されている。本種の生息環境は、その一部が改変されるものの、同様の環境が広く残存する。よって、本種の生息環境への影響は極めて小さい。	C
11	鳥類 ハヤブサ	生息状況・ 生息環境	猛禽類調査では、3月に新施設整備予定区域外の樹林等で1例が確認された。 繁殖期にも確認されたが、確認例は少なく、繁殖行動は確認されなかったことから、新施設整備予定区域周辺では繁殖していないと考えられる（繁殖ランクD）。	
		生息地の消失又は縮小	新施設整備予定区域及び周辺地域の耕作地等は、本種の餌場環境として利用されているが、繁殖行動の可能性は低い。本種の生息環境は、その一部が改変されるものの、同様の環境が広く残存する。よって、本種の生息環境への影響は極めて小さい。	C
12	鳥類 トラツグミ	生息状況・ 生息環境	秋季に新施設整備予定区域内の樹林環境のセンサーダラマで1回撮影された。 非繁殖期のみの確認であり、越冬のための滞在もしくは、渡り途中の滞在と考えられる（繁殖ランクD）。	
		生息地の消失又は縮小	新施設整備予定区域及び周辺地域の樹林等は、本種の冬季又は渡り期の餌場環境として利用されている。本種の生息環境は、その一部が改変されるものの、同様の環境が広く残存する。よって、本種の生息環境への影響は極めて小さい。	C
13	鳥類 コサメビタキ	生息状況・ 生息環境	秋季に新施設整備予定区域外の林縁で1個体が、春季に新施設整備予定区域外の林縁で1個体が、初夏季に新施設整備予定区域外の林縁で1個体が確認された。 繁殖期に繁殖可能な環境で囀りなどの繁殖行動が確認されたことから、新施設整備予定区域周辺の樹林などで繁殖している可能性がある（繁殖ランクB）。	
		生息地の消失又は縮小	新施設整備予定区域及び周辺地域の樹林等は、本種の生息環境として利用されている。本種の生息環境は、その一部が改変されるものの、同様の環境が広く残存する。よって、本種の生息環境への影響は極めて小さい。	C

注) 予測結果は、影響の程度により「影響を受ける（A）」、「影響は小さい（B）」「影響は極めて小さい（C）」、「影響はない（D）」の4段階に区分した。

表 6.7.2-6(4) 重要な種等ごとの予測結果

No.	種名	予測結果		結果区分
14	両生類 セトウチサンショウウオ	生息状況・ 生息環境	早春季に新施設整備予定区域内の 1 カ所の池と 1 カ所の湿地で卵塊計 12 個が、春季に新施設整備予定区域内の 2 カ所の池と新施設整備予定区域外の 1 カ所の池で卵塊計 9 個と幼生計 174 個体が、初夏季に新施設整備予定区域外の 1 カ所の池で幼生計 7 個体が確認された。 卵塊や幼生の存在より、新施設整備予定区域内外の 3 カ所の池及び 1 カ所の湿地で繁殖が確認された（繁殖ランク A）。	
		生息地の消失又は縮小	新施設整備予定区域及び周辺地域の池や湿地、樹林等は、本種の生息環境として利用されている。本種は香川県では絶滅危惧種Ⅱ類に分類されるなど、生息環境は限定されると考えられる。繁殖が確認された 3 カ所の池及び 1 カ所の湿地のうち 3 カ所は事業による改変で消失する。よって、本種の生息環境は影響を受ける。	A
		土地の改変 に伴う水の濁り	改変により消失する池以外には、繁殖可能な池等への新施設整備予定区域からの排水の流入経路はない。よって、本種の生息環境への影響はない。	D
15	両生類 アカハライモリ	生息状況・ 生息環境	秋季に新施設整備予定区域外の 1 カ所の池で成体計 2 個体が、春季に新施設整備予定区域外の 2 カ所の池で成体計 15 個体が、初夏季に新施設整備予定区域外の 1 カ所の池で成体 4 個体が確認された。 成体のみの確認であるが、本種は移動性が乏しいことから新施設整備予定区域外の池で繁殖している可能性がある（繁殖ランク B）。	
		生息地の消失又は縮小	新施設整備予定区域及び周辺地域の池等は、本種の生息環境として利用されているが、生息が確認された 2 カ所の池は改変されない。よって、本種の生息環境への影響は極めて小さい。	C
		土地の改変 に伴う水の濁り	改変により消失する池以外には、繁殖可能な池等への新施設整備予定区域からの排水の流入経路はない。よって、本種の生息環境への影響はない。	D
16	両生類 二ホンヒキガエル	生息状況・ 生息環境	秋季に新施設整備予定区域内の 1 カ所の湿地で成体 1 個体及び新施設整備予定区域外の 1 カ所の耕作地で亜成体 1 個体が、春季に新施設整備予定区域外の 1 カ所の池で幼生約 100 個体が、初夏季に新施設整備予定区域外の 1 カ所の池で幼生約 100 個体及び新施設整備予定区域外の 1 カ所の樹林で成体 1 個体が確認された。 幼生の存在より、新施設整備予定区域外の 1 カ所の池で繁殖が確認された（繁殖ランク A）。	
		生息地の消失又は縮小	新施設整備予定区域及び周辺地域の池や樹林等は、本種の生息環境として利用されている。本種の成体等の生息環境は、その一部が改変されるものの、同様の環境が広く残存する。また、繁殖が確認された 2 カ所の池は改変されない。よって、本種の生息環境への影響は極めて小さい。	C
		土地の改変 に伴う水の濁り	改変により消失する池や湿地以外には、繁殖可能な池等への新施設整備予定区域からの排水の流入経路はない。よって、本種の生息環境への影響はない。	D

注) 予測結果は、影響の程度により「影響を受ける (A)」、「影響は小さい (B)」、「影響は極めて小さい (C)」、「影響はない (D)」の4段階に区分した。

表 6.7.2-6(5) 重要な種等ごとの予測結果

No.	種名	予測結果		結果区分
17	両生類 トノサマ ガエル	生息状況・ 生息環境	秋季に新施設整備予定区域外の 1 か所の草地で成体 1 個体が、春季に新施設整備予定区域内の 1 か所の池で成体計 2 個体が、初夏季に新施設整備予定区域外の 1 か所の池で成体 1 個体が確認された。 成体のみの確認であるが、本種は移動性が乏しいことから新施設整備予定区内外の 2 か所の池で繁殖している可能性がある（繁殖ランク B）。	
		生息地の消 失又は縮小	新施設整備予定区域及び周辺地域の池や樹林等は、本種の生息環境として利用されている。本種の繁殖が想定される 2 か所の池のうち 1 か所は事業による改変で消失し、その他の生息環境は、その一部が改変されるものの、主要な生息環境である水田や湿地等は周辺地域に広く残存する。よって、本種の生息環境への影響は極めて小さい。	B
		土地の改変 に伴う水の 濁り	改変により消失する池以外には、繁殖可能な池等への新施設整備予定区域からの排水の流入経路はない。よって、本種の生息環境への影響はない。	D
18	爬虫類 ニホント カゲ	生息状況・ 生息環境	春季に新施設整備予定区域内外の 6 か所の林縁で成体計 4 個体及び幼体計 3 個体が、初夏季に新施設整備予定区域内外の 1 か所の林縁で成体 1 個体が確認された。 幼体の存在や本種の行動範囲の狭さより、新施設整備予定区域内外の広域で繁殖が確認された（繁殖ランク A）。	
		生息地の消 失又は縮小	新施設整備予定区域及び周辺地域の樹林や草地等は、本種の生息環境として利用されている。本種の生息環境は、その一部が改変されるものの、同様の環境が広く残存する。よって、本種の生息環境への影響は極めて小さい。	C
19	昆虫類 ベニイト トンボ	生息状況・ 生息環境	夏季に新施設整備予定区域内の 1 か所の池で成虫約 10 個体が確認された。 確認された個体は産卵や縄張り行動などの繁殖行動を行っており、新施設整備予定区域内の 1 か所の池で繁殖が確認された（繁殖ランク A）。	
		生息地の消 失又は縮小	新施設整備予定区域及び周辺地域の池等は、本種の生息環境として利用されている。繁殖が確認された 1 か所の池は事業による改変で消失するが、香川県では比較的広く生息していると考えられる。よって、本種の生息環境への影響は小さい。	B
		土地の改変 に伴う水の 濁り	改変により消失する池以外には、繁殖可能な池等への新施設整備予定区域からの排水の流入経路はない。よって、本種の生息環境への影響はない。	D
20	昆虫類 カトリヤ ンマ	生息状況・ 生息環境	秋季に新施設整備予定区域外の 1 か所の耕作地で、成虫 1 個体が確認された。 確認場所は本種の繁殖環境ではなかった。新施設整備予定区域内に繁殖環境となり得る湿地環境が存在するが、繁殖の有無は不明である（繁殖ランク C）。	
		生息地の消 失又は縮小	新施設整備予定区域及び周辺地域の湿地等における本種の繁殖有無は不明である。本種の生息環境は、その一部が改変されるものの、同様の環境が広く残存する。よって、本種の生息環境への影響は極めて小さい。	C
		土地の改変 に伴う水の 濁り	改変により消失する湿地以外には、繁殖可能な湿地等への新施設整備予定区域からの排水の流入経路はない。よって、本種の生息環境への影響はない。	D

注) 予測結果は、影響の程度により「影響を受ける（A）」、「影響は小さい（B）」「影響は極めて小さい（C）」、「影響はない（D）」の4段階に区分した。

表 6.7.2-6(6) 重要な種等ごとの予測結果

No.	種名	予測結果		結果区分
21	昆虫類 サラサヤンマ	生息状況・ 生息環境	初夏季に新施設整備予定区域内の 2 カ所の湿地で成虫計 2 個体が確認された。 確認された個体は産卵や縄張り行動などの繁殖行動を行っており、新施設整備予定区域内の湿地で繁殖が確認された（繁殖ランク A）。	
		生息地の消失又は縮小	新施設整備予定区域及び周辺地域の湿地等は、本種の生息環境として利用されている。繁殖が確認された 1 カ所の湿地は事業による改変で消失するが、香川県では比較的広く生息していると考えられる。よって、本種の生息環境への影響は小さい。	B
		土地の改変 に伴う水の濁り	改変により消失する湿地以外には、繁殖可能な湿地等への新施設整備予定区域からの排水の流入経路はない。よって、本種の生息環境への影響はない。	D
22	昆虫類 キイロサナエ	生息状況・ 生息環境	初夏季に新施設整備予定区域内の 2 カ所の湿地で成虫計 2 個体が確認された。 確認された個体は産卵や縄張り行動などの繁殖行動を行っており、新施設整備予定区域内の湿地で繁殖が確認された（繁殖ランク A）。	
		生息地の消失又は縮小	新施設整備予定区域及び周辺地域の樹林等は、成虫の餌場となり得るが、繁殖環境の河川は改変されない。成虫の餌場環境はその一部が改変されるものの、同様の環境が広く残存する。よって、本種の生息環境への影響は極めて小さい。	C
		土地の改変 に伴う水の濁り	本種の生息環境の一部である新施設整備予定区域下流側の沢は新施設整備予定区域からの排水の流入経路となっている。しかし、「6.5.水質」で検討した環境保全措置の実施により、新施設整備予定区域下流側の降雨時の浮遊物質量は現況調査結果の変動範囲内もしくはそれ以下の濃度になると予測される。よって、本種の生息環境への影響は極めて小さい。	C
23	昆虫類 オジロサナエ	生息状況・ 生息環境	底生動物調査では、秋季に沢の下流において幼虫 2 個体が確認された。昆虫類調査では確認されなかった。 幼虫が確認されたことから、確認地点上流（竹本川）での繁殖が確認された（繁殖ランク A）。	
		生息地の消失又は縮小	新施設整備予定区域及び周辺地域の樹林等は、成虫の餌場となり得るが、繁殖環境の河川は改変されない。成虫の餌場環境はその一部が改変されるものの、同様の環境が広く残存する。よって、本種の生息環境への影響は極めて小さい。	C
		土地の改変 に伴う水の濁り	本種の繁殖環境の一部である新施設整備予定区域下流側の沢は新施設整備予定区域からの排水の流入経路となっている。しかし、「6.5.水質」で検討した環境保全措置の実施により、新施設整備予定区域下流側の降雨時の浮遊物質量は現況調査結果の変動範囲内もしくはそれ以下の濃度になると予測される。よって、本種の生息環境への影響は極めて小さい。	C

注) 予測結果は、影響の程度により「影響を受ける（A）」、「影響は小さい（B）」「影響は極めて小さい（C）」、「影響はない（D）」の4段階に区分した。

表 6.7.2-6(7) 重要な種等ごとの予測結果

No.	種名	予測結果		結果区分
24	昆虫類 タベサナエ	生息状況・ 生息環境	昆虫類調査では、春季に新施設整備予定区域内の1か所の池で成虫1個体が確認された。底生動物調査では、秋季に新施設整備予定区域外の1か所の池で幼虫4個体が、夏季に新施設整備予定区域外の2か所の池で幼虫13個体が、新施設整備予定区域内の1か所の池で幼虫1個体が確認された。 幼虫の存在より、新施設整備予定区域内外の3カ所の池で繁殖が確認された（繁殖ランクA）。	
		生息地の消 失又は縮小	新施設整備予定区域及び周辺地域の池や樹林等は、本種の生息環境として利用されている。繁殖が確認された3か所の池地のうち1か所は事業による改変で消失するが、香川県では比較的広く生息していると考えられる。よって、本種の生息環境への影響は小さい。	B
		土地の改 変に伴う水の 濁り	本種の繁殖環境の一部である新施設整備予定区域下流側の1か所の池は新施設整備予定区域からの排水の流入経路となっている。しかし、「6.5.水質」で検討した環境保全措置の実施により、新施設整備予定区域下流側の降雨時の浮遊物質量は現況調査結果の変動範囲内もしくはそれ以下の濃度になると予測される。よって、本種の生息環境への影響は極めて小さい。	C
25	昆虫類 ヒメアカネ	生息状況・ 生息環境	秋季に新施設整備予定区域内の2か所の湿地で成虫約8個体が確認された。 確認された個体は縄張り行動などの繁殖行動を行っており、新施設整備予定区域内の湿地で繁殖が確認された（繁殖ランクA）。	
		生息地の消 失又は縮小	新施設整備予定区域及び周辺地域の湿地等は、本種の生息環境として利用されている。繁殖が確認された2か所の湿地は事業による改変で消失するが、香川県では比較的広く生息していると考えられる。よって、本種の生息環境への影響は小さい。	B
		土地の改 変に伴う水の 濁り	改変により消失する湿地以外には、繁殖可能な湿地等への新施設整備予定区域からの排水の流入経路はない。よって、本種の生息環境への影響はない。	D
26	昆虫類 オオミズム シ	生息状況・ 生息環境	夏季に新施設整備予定区域内の1か所の池で成虫6個体が確認された。 繁殖期に繁殖可能な環境で確認されたことから、新施設整備予定区域内の1か所の池で繁殖している可能性がある（繁殖ランクB）。	
		生息地の消 失又は縮小	新施設整備予定区域及び周辺地域の池等は、本種の生息環境として利用されている。生息が確認された1か所の池は事業による改変で消失するが、香川県では比較的広く生息していると考えられる。よって、本種の生息環境への影響は小さい。	B
		土地の改 変に伴う水の 濁り	改変により消失する池以外には、繁殖可能な池等への新施設整備予定区域からの排水の流入経路はない。よって、本種の生息環境への影響はない。	D

注) 予測結果は、影響の程度により「影響を受ける（A）」、「影響は小さい（B）」「影響は極めて小さい（C）」、「影響はない（D）」の4段階に区分した。

表 6.7.2-6(8) 重要な種等ごとの予測結果

No.	種名	予測結果		結果区分
27	昆虫類 ヒメタイコウチ	生息状況・ 生息環境	秋季に新施設整備予定区域内の 1 か所の池と 2 か所の湿地で成虫計 3 個体が、春季に新施設整備予定区域内の 2 か所の湿地で成虫計 10 個が、夏季に新施設整備予定区域内の 1 か所の池及び 3 か所の湿地で幼虫計 13 個体が確認された。 幼虫の存在より、新施設整備予定区域内の湿地で繁殖が確認された（繁殖ランク A）。	
		生息地の消失又は縮小	新施設整備予定区域及び周辺地域の湿地等は、本種の生息環境として利用されている。本種は香川県では絶滅危惧種Ⅱ類に分類されるなど、生息環境は限定されると考えられる。生息が確認された 2 か所の湿地及び 1 か所の池は事業による改変で消失する。よって、本種の生息環境は影響を受ける。	A
		土地の改変 に伴う水の濁り	改変により消失する湿地や池以外には、繁殖可能な池等への新施設整備予定区域からの排水の流入経路はない。よって、本種の生息環境への影響はない。	D
28	昆虫類 キマダラセリ	生息状況・ 生息環境	秋季に新施設整備予定区域外の開けた草地で成虫 1 個体が確認された。 繁殖期に繁殖可能な環境で確認されたことから、新施設整備予定区域外の草地で繁殖している可能性がある（繁殖ランク B）。	
		生息地の消失又は縮小	新施設整備予定区域及び周辺地域の草地等は、本種の生息環境として利用されている。本種の生息環境は、その一部が改変されるものの、同様の環境が広く残存する。よって、本種の生息環境への影響は極めて小さい。	C
29	昆虫類 マルチビゲンゴロウ	生息状況・ 生息環境	春季に新施設整備予定区域外の 1 か所の池で成虫 5 個体が確認された。 繁殖期に繁殖可能な環境で確認されたことから、新施設整備予定区域外の 1 か所の池で繁殖している可能性がある（繁殖ランク B）。	
		生息地の消失又は縮小	新施設整備予定区域及び周辺地域の池等は、本種の生息環境として利用されているが、生息が確認された 1 か所の池は改変されない。よって、本種の生息環境への影響は極めて小さい。	C
		土地の改変 に伴う水の濁り	改変により消失する池以外には、繁殖可能な池等への新施設整備予定区域からの排水の流入経路はない。よって、本種の生息環境への影響はない。	D
30	昆虫類 ミズスマシ属の一種	生息状況・ 生息環境	初夏季に新施設整備予定区域外の 1 か所の池で成虫 2 個体が確認された。 繁殖期に繁殖可能な環境で確認されたことから、新施設整備予定区域外の 1 か所の池で繁殖している可能性がある（繁殖ランク B）。	
		生息地の消失又は縮小	新施設整備予定区域及び周辺地域の池等は、本種の生息環境として利用されているが、生息が確認された 1 か所の池は改変されない。よって、本種の生息環境への影響は極めて小さい。	C
		土地の改変 に伴う水の濁り	改変により消失する池以外には、繁殖可能な池等への新施設整備予定区域からの排水の流入経路はない。よって、本種の生息環境への影響はない。	D

注) 予測結果は、影響の程度により「影響を受ける（A）」、「影響は小さい（B）」「影響は極めて小さい（C）」、「影響はない（D）」の4段階に区分した。

表 6.7.2-6(9) 重要な種等ごとの予測結果

No.	種名	予測結果		結果区分
31	昆虫類 キイロコガシラミズムシ	生息状況・生息環境	春季に新施設整備予定区域外の1か所の池で成虫1個体が確認された。 確認場所は水が濁り幼虫の餌となるシャジクモが生育していないなど本種の繁殖環境ではなかった。新施設整備予定区域周辺には繁殖に適した環境は確認されず、周辺生息地からの飛来と考えられる（繁殖ランクD）。	
		生息地の消失又は縮小	新施設整備予定区域及び周辺地域の池等は、本種の生息環境として利用されているが、生息が確認された1か所の池は改変されない。よって、本種の生息環境への影響は極めて小さい。	C
		土地の改変に伴う水の濁り	本種の繁殖環境の一部である新施設整備予定区域下流側の1か所の池は新施設整備予定区域からの排水の流入経路となっている。しかし、「6.5.水質」で検討した環境保全措置の実施により、新施設整備予定区域下流側の降雨時の浮遊物質量は現況調査結果の変動範囲内もしくはそれ以下の濃度になると予測される。よって、本種の生息環境への影響は極めて小さい。	C
32	昆虫類 スジヒラタガムシ	生息状況・生息環境	秋季に新施設整備予定区域内の1か所の湿地で成虫計1個体が、春季に新施設整備予定区域外の2か所の池で成虫計6個が、夏季に新施設整備予定区域内の1か所の池及び新施設整備予定区域外の2か所の池で成虫計4個体が確認された。 繁殖期に繁殖可能な環境で確認されたことから、新施設整備予定区域内の1か所の池及び新施設整備予定区域外の3か所の池で繁殖している可能性がある（繁殖ランクB）。	
		生息地の消失又は縮小	新施設整備予定区域及び周辺地域の池等は、本種の生息環境として利用されている。生息が確認された4か所の池のうち1か所は事業による改変で消失するが、香川県では比較的広く生息していると考えられる。よって、本種の生息環境への影響は小さい。	B
		土地の改変に伴う水の濁り	改変により消失する池以外には、繁殖可能な池等への新施設整備予定区域からの排水の流入経路はない。よって、本種の生息環境への影響はない。	D
33	昆虫類 ヘイケボタル	生息状況・生息環境	夏季に新施設整備予定区域外の1か所の池で成虫1個体が確認された。 繁殖期に繁殖可能な環境で確認されたことから、新施設整備予定区域外の1か所の池で繁殖している可能性がある（繁殖ランクB）。	
		生息地の消失又は縮小	新施設整備予定区域及び周辺地域の池等は、本種の生息環境・繁殖環境として利用されているが、生息が確認された1か所の池は改変されない。よって、本種の生息環境への影響は極めて小さい。	C
		土地の改変に伴う水の濁り	改変により消失する池以外には、繁殖可能な池等への新施設整備予定区域からの排水の流入経路はない。よって、本種の生息環境への影響はない。	D

注) 予測結果は、影響の程度により「影響を受ける(A)」、「影響は小さい(B)」「影響は極めて小さい(C)」、「影響はない(D)」の4段階に区分した。

表 6.7.2-6(10) 重要な種等ごとの予測結果

No.	種名	予測結果		結果区分
33	昆虫類 ゲンジボタル	生息状況・ 生息環境	初夏のゲンジボタル調査では、沢の下流で成虫1個体が確認された。底生動物調査では、冬季に沢の下流で幼虫2個体が、夏季に新施設整備予定区域外の池で幼虫3個体が確認された。 幼虫が確認されたことから、新施設整備予定区域下流の沢及び新施設整備予定区域外の1か所の池で繁殖が確認された（繁殖ランクA）。	/
		生息地の消失又は縮小	新施設整備予定区域及び周辺地域の沢や池等は、本種の生息環境として利用されているが、繁殖環境の沢や池は改変されない。よって、本種の生息環境への影響は極めて小さい。	C
		土地の改変に伴う水の濁り	本種の生息環境の一部である新施設整備予定区域下流側の沢は新施設整備予定区域からの排水の流入経路となっている。しかし、「6.5.水質」で検討した環境保全措置の実施により、新施設整備予定区域下流側の降雨時の浮遊物質量は現況調査結果の変動範囲内もしくはそれ以下の濃度になると予測される。よって、本種の生息環境への影響は極めて小さい。	C
35	昆虫類 トゲアリ	生息状況・ 生息環境	秋季に新施設整備予定区域外の樹林で成虫1個体が確認された。 本種の行動範囲の狭さより、新施設整備予定区域内外の樹林で繁殖している可能性がある（繁殖ランクB）。	/
		生息地の消失又は縮小	新施設整備予定区域及び周辺地域の樹林等は、本種の生息環境として利用されている。本種の生息環境は、その一部が改変されるものの、同様の環境が広く残存する。よって、本種の生息環境への影響は極めて小さい。	C
36	昆虫類 ヤマトアシナガバチ	生息状況・ 生息環境	夏季に新施設整備予定区域外の樹林で成虫1個体が確認された。 繁殖期に繁殖可能な環境で確認されたことから、新施設整備予定区域内外の草地などで繁殖している可能性がある（繁殖ランクB）。	/
		生息地の消失又は縮小	新施設整備予定区域及び周辺地域の草地等は、本種の生息環境として利用されている。本種の生息環境は、その一部が改変されるものの、同様の環境が広く残存する。よって、本種の生息環境への影響は極めて小さい。	C
37	昆虫類 モンスズメバチ	生息状況・ 生息環境	秋季に新施設整備予定区域外の2か所の林縁で巣1個及び成虫約10個体が、春季に新施設整備予定区域内の1か所の林縁及び新施設整備予定区域外の1か所の林縁で成虫計2個体が、夏季に新施設整備予定区域外の4か所の林縁や草地で巣計2個及び成虫計10個体が確認された。 複数か所の巣が確認されたことから、新施設整備予定区域周辺で繁殖が確認された（繁殖ランクA）。	/
		生息地の消失又は縮小	新施設整備予定区域及び周辺地域の草地等は、本種の生息環境として利用されている。本種の生息環境は、その一部が改変されるものの、同様の環境が広く残存する。よって、本種の生息環境への影響は極めて小さい。	C
38	陸産貝類 ウメムラシタラガイ	生息状況・ 生息環境	秋季に新施設整備予定区域内の1か所の湿地で幼貝及び成貝計8個体（死貝を含む）が、初夏季に新施設整備予定区域内の1か所の湿地及び新施設整備予定区域外の1か所の植栽地で幼貝計4個体（死貝を含む）が確認された。 幼貝が確認され、移動性に乏しく繁殖環境に一生留まることから、新施設整備予定区域内外の樹林や草地で繁殖している（繁殖ランクA）。	/
		生息地の消失又は縮小	新施設整備予定区域及び周辺地域の樹林等は、本種の生息環境として利用されている。本種の生息環境は、その一部が改変されるものの、同様の環境が広く残存する。よって、本種の生息環境への影響は極めて小さい。	C

注) 予測結果は、影響の程度により「影響を受ける（A）」「影響は小さい（B）」「影響は極めて小さい（C）」「影響はない（D）」の4段階に区分した。

表 6.7.2-6(11) 重要な種等ごとの予測結果

No.	種名	予測結果		結果区分
39	陸産貝類 オオウエキビ	生息状況・ 生息環境	秋季に新施設整備予定区域内の 1 か所の湿地及び新施設整備予定区域外の 1 か所の植栽地で成貝及び幼貝計 4 個体（死貝を含む）が確認された。 幼貝が確認され、移動性に乏しく繁殖環境に一生留まることから、新施設整備予定区域内外の樹林や草地で繁殖している（繁殖ランク A）。	
		生息地の消失又は縮小	新施設整備予定区域及び周辺地域の樹林等は、本種の生息環境として利用されている。本種の生息環境は、その一部が改変されるものの、同様の環境が広く残存する。よって、本種の生息環境への影響は極めて小さい。	C
40	魚類 ミナミメダカ	生息状況・ 生息環境	秋季、冬季、夏季に新施設整備予定区域内の 1 か所の池で計 12 個体が確認された。 確認された池は流入する水路がなく閉鎖されていることから、新施設整備予定区域内の 1 か所の池で繁殖している（繁殖ランク A）。	
		生息地の消失又は縮小	新施設整備予定区域及び周辺地域の池等は、本種の生息環境として利用されている。本種は香川県では絶滅危惧種 II 類に分類されるなど、生息環境は限定されると考えられる。生息が確認された 1 か所の池は事業による改変で消失する。よって、本種の生息環境は影響を受ける。	A
		土地の改変 に伴う水の濁り	改変により消失する湿地や池以外には、繁殖可能な池等への新施設整備予定区域からの排水の流入経路はない。よって、本種の生息環境への影響はない。	D
41	魚類 シマヒレヨシノボリ	生息状況・ 生息環境	冬季に新施設整備予定区域下流の沢で成魚 1 個体が確認された。 幼魚等は確認されなかつたが、確認地点の下流には遡上困難な堰堤で堰き止めた止水域があることから、確認地点付近で繁殖している（繁殖ランク A）。	
		生息地の消失又は縮小	新施設整備予定区域及び周辺地域の沢は、本種の生息環境として利用されているが、繁殖環境の沢は改変されない。よって、本種の生息環境への影響は極めて小さい。	C
		土地の改変 に伴う水の濁り	本種の生息環境の一部である新施設整備予定区域下流側の沢は新施設整備予定区域からの排水の流入経路となっている。しかし、「6.5.水質」で検討した環境保全措置の実施により、新施設整備予定区域下流側の降雨時の浮遊物質量は現況調査結果の変動範囲内もしくはそれ以下の濃度になると予測される。よって、本種の生息環境への影響は極めて小さい。	C

注) 予測結果は、影響の程度により「影響を受ける (A) 」、「影響は小さい (B) 」「影響は極めて小さい (C) 」、「影響はない (D) 」の4段階に区分した。

表 6.7.2-6(12) 重要な種等ごとの予測結果

No.	種名	予測結果		結果区分
42	底生動物 カワニナ属の一種	生息状況・ 生息環境	春季に新施設整備予定区域外の1か所の池で成貝3個体が、夏季に新施設整備予定区域下流の1か所の沢及び新施設整備予定区域外の1か所の池で成貝計4個体が確認された。 本種は移動性が乏しく繁殖水域で一生を過ごすことや確認個所(は流域の源流に近いことから、確認地点で繁殖している(繁殖ランクA)。	
		生息地の消 失又は縮小	新施設整備予定区域及び周辺地域の沢や池等は、本種の生息環境として利用されているが、繁殖環境の沢や池は改変されない。よって、本種の生息環境への影響は極めて小さい。	C
		土地の改 変に伴う水の 濁り	本種の生息環境の一部である新施設整備予定区域下流側の沢や池は新施設整備予定区域からの排水の流入経路となっている。しかし、「6.5.水質」で検討した環境保全措置の実施により、新施設整備予定区域下流側の降雨時の浮遊物質量は現況調査結果の変動範囲内もしくはそれ以下の濃度になると予測される。よって、本種の生息環境への影響は極めて小さい。	C
43	底生動物 ヒラマキミズマイマイ	生息状況・ 生息環境	秋季に新施設整備予定区域内の1か所の池で成貝1個体が、夏季に新施設整備予定区域内の1か所の池及び新施設整備予定区域外の1か所の池で成貝計40個体が確認された。 確認された池は出入する水路がなく閉鎖されていることから、新施設整備予定区域内の1か所の池及び新施設整備予定区域外の1か所の池で繁殖している(繁殖ランクA)。	
		生息地の消 失又は縮小	新施設整備予定区域及び周辺地域の池等は、本種の生息環境として利用されている。生息が確認された2か所の池のうち1か所は事業による改変で消失するが、香川県では比較的広く生息していると考えられる。よって、本種の生息環境への影響は小さい。	B
		土地の改 変に伴う水の 濁り	改変により消失する池以外には、繁殖可能な池等への新施設整備予定区域からの排水の流入経路はない。よって、本種の生息環境への影響はない	D
44	底生動物 ヒラマキガ イモドキ	生息状況・ 生息環境	秋季に新施設整備予定区域内の3か所の池で成貝計193個体が、冬季に新施設整備予定区域内の3か所の池で成貝計71個体が、春季に新施設整備予定区域内の3か所の池で成貝計155個体が、夏季に新施設整備予定区域内の3か所の池で成貝計171個体が確認された。 確認された池は出入する水路がなく閉鎖されていることから、新施設整備予定区域内の3か所の池で繁殖している(繁殖ランクA)。	
		生息地の消 失又は縮小	新施設整備予定区域及び周辺地域の池等は、本種の生息環境として利用されている。生息が確認された3か所の池は事業による改変で消失するが、香川県では比較的広く生息していると考えられる。よって、本種の生息環境への影響は小さい。	B
		土地の改 変に伴う水の 濁り	改変により消失する池以外には、繁殖可能な池等への新施設整備予定区域からの排水の流入経路はない。よって、本種の生息環境への影響はない	D

(注) 予測結果は、影響の程度により「影響を受ける(A)」、「影響は小さい(B)」「影響は極めて小さい(C)」「影響はない(D)」の4段階に区分した。

表 6.7.2-6(13) 重要な種等ごとの予測結果

No.	種名	予測結果		結果区分
45	底生動物 ドブシジミ	生息状況・ 生息環境	秋季に新施設整備予定区域内の 3か所の池で成貝計 12 個体が、冬季に新施設整備予定区域内の 3 か所の池及び新施設整備予定区域外の 1 か所の池で成貝計 17 個体が、春季に新施設整備予定区域内の 3 か所の池及び新施設整備予定区域外の 2 か所の池で成貝計 220 個体が、夏季に新施設整備予定区域内の 3 か所の池及び新施設整備予定区域外の 2 か所の池で成貝計 55 個体が確認された。 確認された池は流入する水路がなく閉鎖されていることから、新施設整備予定区域内の 3 か所の池及び新施設整備予定区域外の 2 か所の池で繁殖している（繁殖ランク A）。	
		生息地の消 失又は縮小	新施設整備予定区域及び周辺地域の池等は、本種の生息環境として利用されている。生息が確認された 5 か所の池のうち 3 か所は事業による改変で消失するが、香川県では比較的広く生息していると考えられる。よって、本種の生息環境への影響は小さい。	B
		土地の改 変に伴う水の 濁り	改変により消失する池以外には、繁殖可能な池等への新施設整備予定区域からの排水の流入経路はない。よって、本種の生息環境への影響はない	D
46	底生動物 サワガニ	生息状況・ 生息環境	秋季に新施設整備予定区域外の 1 か所の池及び新施設整備予定区域下流の 2 か所の沢で計 32 個体（成体及び幼体）が、冬季に新施設整備予定区域下流の 2 か所の沢で計 12 個体（成体及び幼体）が、春季に新施設整備予定区域外の 2 か所の池及び新施設整備予定区域下流の 2 か所の沢で計 11 個体（成体及び幼体）が、夏季に新施設整備予定区域外の 1 か所の池及び新施設整備予定区域内の 1 か所の池及び新施設整備予定区域下流の 2 か所の沢で計 10 個体（成体及び幼体）が確認された。 本種は移動性が乏しく繁殖水域で一生を過ごすことや確認個所（は流域の源流に近いことから、確認地点で繁殖している（繁殖ランク A）。	
		生息地の消 失又は縮小	新施設整備予定区域及び周辺地域の沢や池等は、本種の生息環境として利用されている。生息が確認された 3 か所の池のうち 1 か所は事業による改変で消失するが、主要な生息環境の沢は改変されない。よって、本種の生息環境への影響は極めて小さい。	C
		土地の改 変に伴う水の 濁り	本種の生息環境の一部である新施設整備予定区域下流側の沢や池は新施設整備予定区域からの排水の流入経路となっている。しかし、「6.5. 水質」で検討した環境保全措置の実施により、新施設整備予定区域下流側の降雨時の浮遊物質量は現況調査結果の変動範囲内もしくはそれ以下の濃度になると予測される。よって、本種の生息環境への影響は極めて小さい。	C

注) 予測結果は、影響の程度により「影響を受ける（A）」、「影響は小さい（B）」「影響は極めて小さい（C）」、「影響はない（D）」の4段階に区分した。

(2) 環境保全措置

1) 環境保全措置の検討

重要な種等のうち、予測の結果、「影響を受ける（A）」又は「影響は小さい（B）」に該当した種を対象に、造成等の施工による一時的な影響及び施設の存在に伴う影響をできる限り回復・低減するために、環境保全措置の検討を行った。

なお、保全対象となる重要な種等の生息環境は新施設整備予定区域の中心付近であり、予定区域の面積が限られていることから、「回避」又は「低減」による保全は困難である。また、新施設整備予定区域の再設定には数年単位の時間を要し、既存施設の延命化も困難であることから、事業地の変更による「回避」も困難である。そのため、「影響を受ける（A）」と予測された種の環境保全措置は、主に「代償」措置とした。

また、土地の改変に伴う水の濁りの影響については、「影響は極めて小さい（C）」又は「影響はない（D）」と予測したが、予測の前提とした「6.5 水質」で検討した環境保全措置も実施する。検討内容を表 6.7.2-7 に示す。

表 6.7.2-7 環境保全措置の検討内容（動物）

環境影響要因	環境保全措置の種類	環境保全措置の内容
生息地の消失又は縮小	地形改変の最小化	工事施工ヤードは新施設整備予定区域内を利用するなど、土地の不要な改変を避けることで、動物の生息環境の消失・縮小を最小化する。
	個体の保護・移植	土地の改変により主要な生息環境を改変される種 ^{注1)} 及び付随的に確認されたその他の重要な種 ^{注2)} について、周辺の生息環境への移植を行う。
	代償環境の整備	土地の改変により主要な生息環境を改変される種のうち、周辺に生息環境が確保できない種 ^{注3)} については、既存の類似環境を整備し、代償環境を確保したうえで、移植を行う。
	植栽の実施	敷地内において、可能な限り植栽を施することで、動物の生息環境を創出する。
	建設機械・工法の選定	できる限り低騒音型の建設機械・工法を採用するよう努める。
	施工時の配慮	工事関係者に対し、工事区域外への不要な立ち入りや動物の採取等を禁止する。
土地の改変に伴う水の濁り	仮設沈砂池の設置	敷地内の雨水を仮設沈砂池に集めて沈砂後に下流河川へ放流する。
	仮設沈砂池の浚渫	仮設沈砂池における濁水の沈降機能が維持されるよう、定期的な土砂の抜き取りなど適切な対応に努める。
	速やかな転圧等	造成の終わった法面等は、速やかな転圧又は養生シートでの地表面の被覆等を行う。

注1) 対象種：セトウチサンショウウオ、ミナミメダカ

注2) 対象種：トノサマガエル、ベニイトトンボ、サラサヤンマ、タベサナエ、ヒメアカネ、オオミズムシ、スジヒラタガムシ、ヒラマキミズマイマイ、ヒラマキガイモドキ、ドブシジミ

注3) 対象種：ヒメタイコウチ

2) 環境保全措置の検討結果

環境保全措置の検討及び検証を行った結果、実施することとした環境保全措置の内容を表 6.7.2-8 に整理した。

表 6.7.2-8 環境保全措置の検討結果（動物）

環境影響要因	措置の種類	措置の区分	実施主体	保全措置の内容及び効果	効果の不確実性	新たに生じる影響
生息地の消失又は縮小	地形改変の最小化	最小化	高松市	工事施工ヤードは新施設整備予定区域内を利用するなど、土地の不要な改変を避けることで、動物の生息環境の消失・縮小を最小化し、動物への影響を低減できる。	なし	なし
	個体の保護・移植	代償	高松市	土地の改変により主要な生息環境を改変される種 ^{注1)} 及び付随的に確認されたその他の重要な種 ^{注2)} について、周辺の生息環境への移植を行うことで、対象種への影響を回避・低減できる。	移植種の定着に不確実性あり	なし
	代償環境の整備	代償	高松市	土地の改変により主要な生息環境を改変される種のうち、周辺に生息環境が確保できない種 ^{注3)} については、既存の類似環境を整備し、代償環境を確保したうえで、移植を行うことで、生息環境を代償し、対象種への影響を回避・低減できる。	移植種の定着に不確実性あり	なし
	植栽の実施	低減	高松市	敷地内において、可能な限り植栽を施することで、動物の生息環境を創出することができる。	なし	なし
	建設機械・工法の選定	低減	高松市	できる限り低騒音型の建設機械・工法を採用するよう努めることで、動物への影響を低減できる。	なし	なし
	施工時の配慮	低減	高松市	工事関係者に対し、工事区域外への不要な立ち入りや動物の採取等を禁止することで、動物への影響を低減できる。	なし	なし
土地の改変に伴う水の濁り	仮設沈砂池の設置	低減	高松市	敷地内の雨水を仮設沈砂池に集めて沈砂後に下流河川へ放流することにより、下流河川等への濁水の影響を低減できる。	なし	なし
	仮設沈砂池の浚渫	低減	高松市	仮設沈砂池における濁水の沈降機能が維持されるよう、定期的な土砂の抜き取りなど適切な対応に努めることにより、下流の河川等への濁水の影響を低減できる。	なし	なし
	速やかな転圧等	低減	高松市	造成の終わった法面等は、速やかな転圧又は養生シートでの地表面の被覆等を行うことにより、下流の河川等への濁水の影響を低減できる。	なし	なし

注1) 対象種：セトウチサンショウウオ、ミナミメダカ

注2) 対象種：トノサマガエル、ベニイトンボ、サラサヤンマ、タベサナエ、ヒメアカネ、オオミズムシ、スジヒラタガムシ、ヒラマキミズマイマイ、ヒラマキガイモドキ、ドブシジミ

注3) 対象種：ヒメタイコウチ

(3) 事後調査

採用した予測手法は、事業計画との重ね合わせによる定量的な手法や、水質（水の濁り）の予測結果の引用等であり、予測の不確実性は小さい。予測の結果、新施設整備予定区域に分布するセトウチサンショウウオ（両生類）、ヒメタイコウチ（昆虫類）及びメダカ（魚類）の3種の重要な種等については、「影響は大きい（A）」と予測した。当該影響に対して実施する環境保全措置のうち「個体の保護・移植」及び「代償環境の整備」については、その効果に不確実性があると考えられることから、事後調査を実施する。事後調査の概要を表 6.7.2-9 に示す

表 6.7.2-9 事後調査の概要（動物）

環境要素	調査項目	調査地点	調査期間・時期	調査方法
動物	移植対象種（セトウチサンショウウオ、ミナミメダカ、ヒメタイコウチ等）の生息状況	対象種の移植地	調査期間は移植先への定着が確認されるまでの期間とし、各種の生態を考慮し移植後2年～4年を基本とする。調査時期は、対象種の確認適期とする。	個体の捕獲による生息確認

(4) 評価

1) 評価の手法

工事の実施及び施設の供用に伴う動物への影響の評価は、対象項目に係る環境影響が、事業者により実行可能な範囲内で回避又は低減されているかどうかを評価する方法により行った。

2) 評価結果

調査及び予測の結果並びに前項に示す環境保全措置の検討結果を踏えると、工事の実施及び施設の供用に伴う動物への影響は、前項の環境保全措置を講じることにより、回復又は低減が期待できるものと考えられる。

以上のことから、工事の実施及び施設の供用に伴う動物への影響については、事業者の実行可能な範囲内で回避又は低減が図られているものと評価した。